
バカとけいおん！と召喚獣

直井刹那

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカとけいおん！と召喚獣

【Nコード】

N4050Z

【作者名】

直井剎那

【あらすじ】

バカテスの文月学園にけいおん！のメンバーたちが入ってきて、オリ主や明久たちバカテスキャラと軽音部で学園生活を過ごしていく物語です。

この物語の設定？

この物語は『バカとテストと召喚獣』の二次創作です。

また『けいおん！』とのクロスものです

オリ主が幼馴染の明久ともう1人の幼馴染と

秀吉、雄二、ムツリー二等のFクラスメンバーやAクラスメンバーと

そしてけいおん！の唯・澪・律・紬や憂・和・梓たちと

楽しく可笑しく毎日を過ごしていく物語です。

バカテストとけいおん！の話を混ぜながらの話になります。

また、この物語は明久たちが入学してからの物語になります。

1年次はけいおん！メインの物語で、

2年次からバカテストメインにしていきたいと思っています。

物語設定？

この物語は『バカとテストと召喚獣』と『けいおん!』のクロスものです

設定

- ・オリ主が明久たちバカテストメンバーとけいおん!メンバーと文月学園にて日々を送っています。
- ・明久はもちろんの事、観察処分者です。
- ・オリ主と明久が軽音部に入部します。

原作との変更点

- ・明久は姫路に恋心を抱いていない
- ・開始が2年時ではなく1年時からなっています。
- ・なのでオリ話になる可能性があります。
- ・また、1年時はけいおん!メインでいき、2年時からバカテストメインになります。

また書いているうちに変更する場合があります。
それでも良い方は呼んで頂けると嬉しいです

プロローグ 天然さんとの出会い

まだ肌寒い3月。俺達とはある高校に向かって歩いてた。

智也「……………」

陽一「ハア……………」

智也「……………」

陽一「ふう……………」

明久「……………」

陽一「あああ……………」

智也「…おい」

陽一「…なに？」

智也「さっきからうるさいんだけど」

俺は隣りを歩く俺の悪友である『春原陽一』に向かって言う。

陽一「しかたねエじゃん！！緊張してんだから！！」

心臓が破裂しそうな勢いなんだよ！！

だから緊張してんだよ！ビビってんだよ！」

智也「…落ち着けよ。日本語がおかしいぞ。」

あと急にテンションあげんな…かなりウザいから」

陽一「ウザいとか言うなよ！傷つくだろ！！」

……はあ。つうか、なんでお前そんなに落ち着いてんの？
今日が何の日か分かってるのか？」

明久「高校の合格発表の日だよね」

そう。今日は文月学園の合格発表の日だ。

陽一「そうだよ！なのにアナタたちはそんなに落ち着いてるんですか！？」

フツッ緊張するもんでしようが！！」

智也「俺はお前と違って受かる自信あるしな。

それに明久を見てみるコイツだって落ち着いてるだろうが」

陽一「うわッ！ウゼエ！ってなんで明久も落ち着いてるんだ？

明久だってあまり成績良くないだろ？こっち側でしょうが！
？」

明久「まあそうだけど…ここまできたら腹くるしかないしね」

智也「明久だってこうなんだぞ。ほら、さっさと行くぞ」

陽一「ハア。あいよ…」

今日は俺達が受験した高校の合格発表の日だ。

多くの中学生達が歓喜に湧いたり、悲しみに涙する日である。

だから普通は陽一のように緊張するんだろうが、（コイツの場合は

異常だが…)

俺は普通に合格できる範囲だったし、試験も解けたから大丈夫という自信がある。

そんなことを考えてたら高校に着いた。

陽一「やべ〜着いちゃったよ。ヤバイよ？マジヤバイよ!!」

智也「何がヤバいんだ。いいかげんハラくくれバカ」

明久「そうだよ。それに大丈夫だよ。

僕達智也に教えてもらったんだから大丈夫だよ」

今回の受験のために明久と陽一は智也に勉強を教えてもらっていた。自慢じゃないが中学の時は成績は上位だったからな。

流石に合格発表の日とあって学生が多い。

おそらく合格したんだろう、友達同士抱き合って喜んでいる者、嬉し涙を流している者、ケータイで笑顔で電話している者などがそこにはいた。

陽一「なあ智也君お願いがあるんだけど…」

智也「……なんだよ？気持ち悪いな」

陽一「俺の代わりに合否を見てきてくれッ!」

智也「はあ？何でだよ？自分で見るよ」

陽一「極度の緊張により足が動きません…」

智也「お前どんだけビビってたよ

……バカなこと言っていないで行くぞ、明久手伝え」

明久「うん」

ガシツ！x2

ズリズリ…

陽一「ちよっ！？やめ、離せ！」

バカなことを言っているアホの襟首を掴んで無理矢理、合格発表が行われている掲示板に引きずっていく。

パツ

ドゴォ！

陽一「うげッ！！」

掲示板に着いたので今まで引きずっていた陽一^{バカ}を離す。

陽一「何すんだテメエ！！イテエじゃねエか！！」

智也「うるせエな。わざとだ。それにここまで運んでやったんだ、

感謝されこそすれ恨まれる筋合いはねエぞ」

となりでまだギャーギャー言ってるバカを放って俺は掲示板を覗く。

智也「さて俺の番号はっ…」

俺の番号は167番だ

智也「おっ あったあった」

掲示板には俺の番号が書かれてあった。

智也「やっぱり受かってたな」

俺が思っていた通り、見事に合格していた。

智也「…で？お前らはどうだったんだ？」

明久「と、智也！僕も受かってたよ！！」

智也「お、良かったな明久」

明久「智也が勉強教えてくれたおかげだよ」

智也「で、陽一は？」

陽一「…まだ見てない…」

智也「早くしろよ」

陽一「…怖いっす…」

智也「このゴドゴドめ…」

陽一「頼むよ？一生のお願いだッ！俺の変わりに見てくれ！！」

智也「……こんなので一生の願いなんてするなよ。

まあ土下座でもしたら見てやっても……」

俺は悪ふざけでそういつと

ガバッ

陽一「お願いします」

その場で土下座するアホ。

こいつにはプライドはないのか…

明久「……本当に土下座してるよ」

智也「本当にするなよ……わかった…見るから、土下座やめろ

俺たちがハズかしいから」

陽一「サンキュー…流石、俺の親友だ」

智也「そんな風に思ってるのお前だけだから」

明久「だね」

陽一「…ひどッ！！」

さて、コイツは受かってんのかね…

陽一の番号を探す…確か番号は159番だな。
番号を探す…

……

ポンッ

智也「…陽一」

陽一の肩に手を置き、神妙な顔で俺は告げる。

陽一「ど、どうだった…？」

明久「智也、どうだったの？」

智也「……あのな…非常に言いづらいんだが……お前は……」

陽一「…な、なに…？」

明久「え？」

智也「…残念ながら……

………受かってたぞ………」

陽一「…そっかぁ…ダメだったか…まあ仕方がないよな……

これも運命………って受かってんのかよ！！！！」

智也「おおー見事なノリツッコミだな。さすが陽一^{バカ}だ」

陽一「なんでそんな紛らわしいことすんだよッ！！！！

てゆうか『残念ながら』っなんだ！！」

智也「そんなの決まってるだろ。面白いからしかないだろ！
それに残念なのは俺だ。またお前と一緒になんだから」

陽一「お前最低だな！！」

智也「まあ落ち着け。良かったじゃねエが無事合格出来て」

陽一「ぐッ…まあね…そっか合格したんだ俺……良かった

………良かったよ！智也くん！！」

明久「良かったね陽一」

バツ！

急にバカが俺に抱き付こうとしたので俺は…

ドゴォ！！！！！！

陽一「ぶバァ！！！！」

渾身の回し蹴りを放ってやった。

陽「イテエじゃねーか！」

智也「気持ちわりイ事してんじゃねエよ……アホが」

男に抱き付かれる趣味はねエ。

さて、そろそろ退散するか。

何やら今の一件で目立ってしまったようだ。

俺が騒いでいるバカを置いて帰ろうとすると、
後ろから突然声を掛けられた。

唯「あの、すみません！け、結果発表、一緒に見てくれませんか！
？」

振り返ると、若干癖毛気味の少女がいた。

智也「……はあ？何で？」

唯「じ、実は……一緒に来てくれるはずの友達が風邪で
来れなくなって妹も用事で来れなくなっちゃったんです……」

少女は暗い顔でそういう。

智也「そうか……分かった。

一緒に見てやるからそんな顔すんなって」

さすがにそんな顔されたら断りにくいしな。

唯「ほ、ほんとですか!？」

智也「ああ。ほんとだ」

陽一「ねえ僕の時と対応違わない？」

智也「気のせいだ」

明久「気にせいだよ」

陽一「いや、気のせいじゃ うべっ」

俺は陽一を黙らせて(腹を殴り気絶させて)

智也「じゃあ、ちよつと一緒に見てくるから

明久この陽一バカのこと頼むわ」

明久「わかった。じゃあ陽一連れて先に帰るね」

智也「悪いな。じゃあまたな」

明久「うん、じゃあね」

俺はそういうと癖毛気味の少女のところへ向かう。

陽一は明久に頼みつけて帰ってもらったことした。

居ても皆さんの邪魔にしかないからな。

.....

智也「ほら、せーのを見るからな」

唯&智也「「せーの！」」

自分の番号でもないのに一瞬、ドキツとする。

唯「あ、あつた！やったー！！！！」

あ、そつだ。自己紹介遅れました！

私、平沢唯です。唯って呼んでください！」

智也「俺は中川智也だ。よろしくな平沢」

さすがに初対面の人間を名前で呼ぶのはな……………

唯「トモ君だね！！！」

アレエ？いきなり下の名前で？しかももうあだ名かよ。
ちよつとハズかしいんだけど……………

そこへ1人の女の子が駆け寄ってくるのが見えた。

憂「お姉ちゃん！」

唯「あ、憂だ〜！」

智也「…………妹さんか？」

憂「用事早く済んだんだ。お姉ちゃん、この人は？」

唯「あ、紹介するね。掲示板一緒に見てくれたトモ君だよ！」

憂「お姉ちゃんがお世話になりました。トモさん」

智也「いや、別に俺は何もしていないよ。

それと俺の名前は中川智也っていうんだ。よろしく」

憂「あ、失礼しました。智也さん。よろしくお願いします。

お姉ちゃん、あだ名付けるのが好きなんです！」

そうなのか？

ハズかしいからやめてほしいんだが

唯「トモ君、メアド交換しようよ！」

智也「トモ君はやめろ。ハズかしいから。まあメアド交換はかまわないが」

唯「ええ〜。可愛いのに」

可愛いってあまりうれしくないな…………。

憂「私もいいですか？」

メアド送信&受信完了。

憂「あの〜、よろしければ智也さんも一緒に夕飯どうですか？

といっても、レストランなんですけど……。」

唯「とってもおいしいんだよ！一押しなんだよ！」

う〜ん、どうするかな。

でも、何かアレだな。

さすがにそれは気まずいな……。

智也「……遠慮しとくよ。家族でごゆっくり……。」

唯「えええ〜！！！」

俺が断ろうとすると平沢姉が声をあげる。

憂「お姉ちゃん、無理言ったらだめよ」

妹は必死に姉を宥めている。余計、断り辛い……。

智也「わ、わかった。目線痛いから、そんな顔するな！」

憂「え？良いんですか？智也さんはご家族とは予定ないんですか？」

智也「ああ両親は海外で仕事してて俺、1人暮らしなんだ。」

だから別にかまわないんだが良いのか俺なんかがお邪魔して」

さすがに今さつき知り合った人間がいきなりご家族と食事なんて少し気まずいからな。

憂「それは大丈夫ですよ」

↳平沢家一押しのレストラン↳

平沢・父「智也君も大変だね」

智也「い、いえ・・・でももう慣れてましたから」

憂「あ、お姉ちゃん！口にソースが・・・。」

唯「え、どこどこ？」

憂「動かないでお姉ちゃん！」

唯「ありがと、憂」

本当にできた妹さんだな。

結局、俺は平沢姉妹と一緒に食事に行く事になり、ご馳走にまでな
った。

キャラ紹介(1)

なかがわともや
中川智也

性別：男

誕生日：9月10日(乙女座)

身長：182cm

得意教科：英語・数学

苦手教科：古典

趣味：読書・ゲーム・バスケット・音楽鑑賞・演奏

ギターやベース

特技：料理(明久にはかなわない)・ギターとベース・バスケット
外見：見た目はクラナドの岡崎朋也で、髪の色・目の色は黒、

左眉に切傷痕があるので見た目はヤンキー。

性格：中身は家庭的で、女心にも疎い朴念仁。だが、変な所で鋭い。

また、温厚で面倒見も良く陽気な性格であり友達思い。
そして負けず嫌い。

- ・運動神経がよく、中学時代はバスケット部の部長だった。
- ・運動神経が良かったため雄二並の武力を持つ。
- また、成績も優秀で中学時代では常に上位をキープしていた。
よって文武両道。
- ・明久と陽一とは幼稚園からの付き合い。
- ・食べる事が好きで鞆の中にお菓子を常備している。
- だが、味覚はお子様で酸っぱい物やワサビが苦手。
- 寿司屋ではサビ抜きでいつも頼んでいる。
- ・両親は海外にて仕事をしているので1人暮らし中。

使用楽器

ギター：ホライゾン

春原陽一すのはらひょういち

性別：男

誕生日：2月17日（水瓶座）

身長：167cm

得意教科：保健体育

苦手教科：保健体育以外の全て

趣味：読書・ゲーム・サッカー

特技：サッカー

外見：クラナドの春原陽平

性格：陽気な性格であり友達思いで、家族思い。

・サッカー部の先輩が、同級生をいじめている現場を発見し、それを助けるが、暴力を使ったため退部した。

このため運動神経だけは優れている。

・不良として悪名が立っているが事を荒立てることを嫌うので、周囲からは「ヘタレ」のレッテルを貼られ、

不用意な言動が原因で他者から痛い目に遭わされたり、いらぬ誤解をされることが多い。

しかし心身とも丈夫で立ち直りは早い。

・智也と明久とは幼稚園からの付き合い。

・元々黒の頭髪を染髪して金髪にしている。

鉄人によく注意されているが本人は直す気は無い。

・妹の芽衣に対しては普段邪険に扱っているが、大切に思っている。家族思い。

・異性に対する興味が旺盛で、魅力的な女子を見つけてはすぐナンパしたがる。

しかし成功した試しは今だなし。

・勉強は苦手だが、関心事に対する集中力には目を見張るところがある。

キャラ紹介(1) (後書き)

皆さんの感想お待ちしております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4050z/>

バカとけいおん！と召喚獣

2011年12月14日18時55分発行